

◎漁業監視船の活動に関する日本国政府と大韓民国政府との間の交換公文

(略称) 韓国との漁業監視船の活動に関する取極

昭和四十一年十月十八日 ソウルで
 昭和四十一年十月十八日 効力発生
 昭和四十一年十月二十五日 告示

(外務省告示第二二〇号)

目次

韓国側書簡	一八九
(1) 取極附属書 I、II 及び III の規定の実施	一八九
(2) 前記附属書の修正	一八九
(3) 前記附属書の有効期間	一八九
附属書 I 両国監視船相互間の通信連絡に関する規定	一九〇
附属書 II 両国の連携巡視に関する規定	一九二
附属書 III 両国の公務員による視察乗船に関する規定	一九五
日本側書簡	一九八

韓国との漁業監視船の活動に関する取極

(漁業監視船の活動に関する大韓民国政府との間の交換公文)

(訳文)

書簡をもつて啓上いたします。本長官は、千九百六十五年六月二十二日に東京で署名された大韓民国と日本国との間の漁業に関する協定に規定された暫定的漁業規制措置の実施に関し両国政府の代表の間で到達した次の了解を大韓民国政府に代わつて確認する光榮を有します。

(1) 両国政府は、それぞれ自国の法令の範囲内で、この書簡に添付する附属書Ⅰ、Ⅱ及びⅢの規定を実施する。

(2) 両国政府は、相互の合意により、(1)にいう附属書の規定を随時修正することができる。

(3) (1)にいう附属書Ⅰ、Ⅱ及びⅢのそれぞれの規定は、この了解が効力を生ずる日から三年間効力を存続し、その後は、いずれか一方の国の政府が他方の国の政府に対してその適用を終了させる意思を書面により通告する日から一年間効力を存続する。

本長官は、さらに、この書簡及び前記の了解を日本国政府に代わつて確認される閣下の返簡を閣下の返簡の日付の日に効力を生ずる両国政府間の合意を構成するものとみなすことを提案する光榮を有します。

韓国との漁業監視船の活動に関する取極

외교부 7020

1966. 10. 18.

가하,

본인은, 1955년 6월 22일 도쿄에서 서명된 「대한민국과 일본국간의 어업에 관한 협정」에 규정된 어업 구역의 설정에 관하여, 양국 정부의 대표간의 도달된 합의에 의거한 「대한민국 정부를 대신하여 합의하는 영장을 제출한다」.

(1) 양국 정부는, 각각 각각 법령의 범위내에서, 본 조항에 첨부하는 부속서 1, 11 및 111의 규정을 준수한다.

(2) 양국 정부는, 상호간의 합의에 의거하여, (1)에 언급된 부속서의 규정을 수시 수정할 수 있다.

(3) (1)에 언급된 부속서 1, 11 및 111의 각각의 규정은, 이 「합의」가 효력을 발효하는 날로부터 3년간 효력을 가지며, 그 후에는 어느 일방의 정부가 「대한민국 정부」에 대하여 서면으로 합의 규정을 수정할 의사를 통보한 날로부터 1년간 효력을 가진다.

본인은, 또한, 이 조항의 합의에 의거한 일본국 정부를 대신하여 합의하는 가하의 회답을, 가하의 회답자에게 효력을 발효하는 양국 정부간의 합의를 구성하는 것으로 통보할 것을 재차 요청을드립니다.

本長官は、以上を申し進めるに際し、ここに重ねて閣下に向かつて敬意を表します。

千九百六十六年十月十八日

大韓民国外務部長官 李東元

日本国特命全權大使 木村四郎七閣下

附屬書 1

兩國船舶相互監視
に關する協定

大韓民国と日本国との間の漁業に関する協定についての合意された議事録 3 (a), (b) 及び (d), 6 並びに 8 (c) に關し、両国の監視船相互間の通信連絡は、次の方法に従つて行なうものとする。

- 1 (a) 両国の監視船の無線電信の設備を有している船舶局相互間の通信に使用する周波数は、呼出し及び応答のためには二、〇九一キロサイクルとし、その他の通信のためにはそれぞれの監視船の船舶局の通常の周波数とする。

本日は、貴大臣が日本の領土に侵入した船舶を捜索する。

大韓民国 外務部長官

李 東 元

大韓民国 外務部長官

木村四郎七閣下

附屬書 1

大韓民国と日本国との間の漁業に関する協定についての合意された議事録 3 (a), (b), (d), 6 及び 8 (c) に關し、両国の監視船相互間の通信連絡は、次の方法に従つて行なうものとする。

1. (a) 両国の監視船の無線電信の設備を有している船舶局相互間の通信に使用する周波数は、呼出し及び応答のためには二、〇九一キロサイクルとし、その他の通信のためにはそれぞれの監視船の船舶局の通常の周波数とする。

(b) (a)에いう船舶局は、その監視船が行動している間、常時二、〇九一キロサイクルを聴守する。

2 一方の国の J(a)にいう船舶局が呼出符号の不明な他方の国の監視船の船舶局を呼び出そうとする場合には、その呼出方法は、CP(特定の二局以上あて一般呼出しを表示する符号)の次にXY(いずれか一方の国の監視船の船舶局を一括して表示する符号)を付したものである。

3 (a) 1(a)にいう船舶局は、相互の直接の通信が困難な場合には、両国のいずれかの海岸局を中継して通信を行なうことができる。

(b) (a)にいう海岸局は、大韓民国の国立水産振興院無線局(HMC)及び海洋警察隊本隊無線局(HMF)並びに日本国の第七管区海上保安本部の通信所(JNR)及び佐世保海上保安部の通信所(JNK)とする。これらの海岸局は、常時二、〇九一キロサイクルを聴守する。

4 一方の国の監視船の無線電信の設備を有していない船舶局が他方の国の監視船の船舶局にあてて通信を行なおうとする場合には、1(a)にいう自国の監視船の船舶局又は両国のいずれかの海岸局を中継して通信を行なう。

(b) (a)에서 말하는 선박국은, 그 경계선의 이동하고 있는 동안, 상시 2,091킬로사이클을 경계한다.

2. 일방국의 J(a)에서 말하는 선박국이 호출부호를 불명인 타방국의 경계선의 선박국을 호출하려는 경우에는, 그 호출 방법은, CP(특정의 2국 이상에 대한 일반 호출을 표시하는 부호) 다음에 XY(어느 일방국의 경계선의 선박국을 일괄하여 표시하는 부호)를 부친 것으로 한다.

3. (a) 1(a)에서 말하는 선박국은, 경계선의 직접적 통신이 곤란한 경우에는, 양국의 어느 일방의 해당국을 중계하여 통신을 할 수 있다.

(b) (a)에서 말하는 해당국은, 대한민국과 주필수단 전용무선국(HMC) 및 해양경찰대 본대 무선국(HMF), 또한 일본국의 제7관구 해상보안 본부의 통신소(JNR) 및 사세보 해상 보안부의 통신소(JNK)도 한다. 이들 해당국은, 상시 2,091킬로 사이클을 경계한다.

4. 일방국의 경계선의 무선전신의 장비는 자기적 일방 선박국이 타방국의 경계선의 선박국이 타국에 통신을 할하려는 경우에는,

1(a)에서 말하는 자국의 경계선의 선박국 또는 양국의 어느 일방의 해당국을 중계하여 통신을 할한다.

5 両国の監視船相互間の通信は、可能な場合には、旗流信号又は発光信号により行なうことができる。

6 両国の監視船相互間の通信は、原則として、英語又は国際通信書により行なう。

附屬書 II

大韓民国と日本国との間の漁業に関する協定についての合意された議事録³(b)に關し、両国の監視船(大韓民国については水産庁漁業指導船及び海洋警察隊警備艇を、日本国については水産庁漁業取締り船及び海上保安庁監視船艇をいう。)が相互に連携して行なう監視(以下「連携監視」という。)は、次の方法に従つて行なうものとする。

1 連携監視を行なうにあつては、大韓民国水産庁漁業指導船及び日本国水産庁漁業取締り船各一隻を一組とし、又は大韓民国海洋警察隊警備艇及び日本国海上保安庁監視船艇各一隻を一組とする。

2 両国の監視船は、連携監視を行なうにあたり、原則として相互に視認できる範囲内で行動し、視界が不良なとき又はやむをえないときは容易に会合できる範囲内で行動する。

5. 양국의 감시선 상호간의 통신은, 가능한 경우에는, 기류신호 또는 발광신호에 의하여 행할 수 있다.

6. 양국의 감시선 상호간의 통신은, 원칙적으로, 영어 또는 국제 통신서도 행한다.

부속서 II

대한민국 및 일본국간의 어업에 관한 협정 합의의 의거후 5(b)에 정하여, 양국 감시선 (대한민국에 의거하는 수산업 어업 지도선 및 해양경찰청 경비정함, 일본국에 의거하는 수산업 어업 단속선 및 해상 보안정 순시선을 말한다.)이 상호 제휴하여 행하는 순시 (이하 「제후순시」라 한다.)는 다음의 방법에 따라 행한다.

1. 제후 순시를 행함에 있어서는, 대한민국 수산업 어업 지도선 및 일본국 수산업 어업단속선 각 1척을 1조로 하고, 합된 대한민국 해양경찰청 경비정 및 일본국 해상 보안정 순시선 각 1척을 또한 1조로 한다.

2. 양국의 감시선은, 제후 순시를 행함에 있어서, 원칙적으로 상호 시인할 수 있는 범위에서 영토하위, 기류상 불행할 때 또는 부득이한 때에는 용이하게 회합할 수 있는 범위에서 행동한다.

3 連携巡視は、年六回以上、主として、暫定的漁業規制措置の対象となつてゐる漁業の盛漁期において行なう。一回の連携巡視の期間は、一週間を基準とする。

4 一方の国の政府の關係当局は、連携巡視のために使用する自国の監視船の船名、所属、呼出符号、総トン数及び航海速力を記載した一覽表を他方の国の政府の關係当局に通報する。一方の国の政府の關係当局は、前記の一覽表の記載事項に変更を生じたときは、他方の国の政府の關係当局に対して遅滞なく通報する。

5 (a) 一方の国の政府の關係当局は、連携巡視を行なおうとするときは、その連携巡視の開始予定日の原則として三十日前までに、他方の国の政府の關係当局に対して次の事項を明示した文書による要請を行なう。

- (1) 連携巡視を行なおうとする自国の監視船の船名
- (2) 連携巡視予定海域
- (3) 連携巡視予定期間
- (4) 両国の監視船が合流することを希望する日時及び場所
- (5) その他必要な事項

3. 査察船は、第6條の第1項、第2項、第3項の適用が本協定の目的を達成するに必要であると認められる場合には、1回の査察船の派遣を1回として計算する。

4. 自国の政府の關係当局は、査察船を派遣するに必要である自国の監視船の船名、所属、呼出符号、総トン数及び航海速力を記載した一覽表を他方の国の政府の關係当局に通報する。一方の国の政府の關係当局は、前記の一覽表の記載事項に変更を生じたときは、他方の国の政府の關係当局に対して遅滞なく通報する。

5. (a) 自国の政府の關係当局は、査察船を派遣するに必要である自国の監視船の船名、所属、呼出符号、総トン数及び航海速力を記載した一覽表を他方の国の政府の關係当局に通報する。一方の国の政府の關係当局は、前記の一覽表の記載事項に変更を生じたときは、他方の国の政府の關係当局に対して遅滞なく通報する。

- (1) 査察船を派遣するに必要である自国の監視船の船名
- (2) 査察船を派遣する海域
- (3) 査察船を派遣する期間
- (4) 両国の監視船が合流することを希望する日時及び場所
- (5) その他必要な事項

(b) (a)の要請を受けた関係当局は、その要請を受けた日から十五日以内に回答することとし、その要請を受諾することを通報するにあつては、その連携巡視に従事する自国の監視船の船名を通報する。両国政府の関係当局は、必要と認めるときは、(a)(2)から(5)について協議して調整することができる。

6 3、4及び5の規定にかかわらず、両国の監視船が遭遇したとき又は特に必要と認めるときは、相互に連絡してできる限り連携巡視を行なう。

7 連携巡視を行なうにあつては、いずれか一方の国の監視船を当番船とする。針路、速力及び間隔等は、当番船が発議し、両国の監視船間の協議により決定する。両国の監視船は、原則として一日交代により、平等に当番船となる。

8 連携巡視を行なっている一方の国の監視船は、海難救助、緊急避難その他のやむをえない理由により、その実施を中止する必要がある場合には、他方の国の監視船にその理由と中止の期間を通報した後に、当該連携巡視を中止することができる。

(b) (a)의 요청을 받은 관계당국은, 그 요청을 받은 날로부터 15일 이내에 회답하여야 하고, 그 요청에 대한 수락을 통보할 때에는, 그 제1호에 종속할 자국 감시선의 건조번호를 통보한다. 양국 정부의 관계 당국은, 필요하다고 인정할 때에는, (a) (2) 내지 (5)에 관하여 협의하여 조정할 수 있다.

6. 3, 4 및 5의 규정에 불구하고, 양국 감시선이遭遇하였을 때에는 특히 필요하다고 인정할 때에는, 상호 연락하여 가능한 일 제후 순서를 행한다.

7. 제후 순서를 행하여 있어서는, 어느 일방국의 감시선은 만편선으로 한다. 적트, 수력 및 감시등은 만편선에 의하여 발령되고 양국 감시선의 협의에 의하여 결정된다. 양국의 감시선은 원칙적으로 1일 교대로 의하여 평등히 당번선이 된다.

8. 제후 순서를 행하고 있는 일방국의 감시선은, *난구조, 긴급미난 또는 기타 부득이한 이유에 의하여, 그 순서를 중지할 필요가 있을 때에는, *백방국의 감시선과 그 이유와 중지의 기간을 통보할 후에 당해 제후 순서를 중지할 수 있다.

大韓民国と日本国との間の漁業に関する協定についての合意された議事録³⁴に關し、一方の国のものもつばら漁業の取締りに従事する監視船（大韓民国については水産庁漁業指導船を、日本国については水産庁漁業取締り船をいい、以下「漁業取締り船」という。）が暫定的漁業規制措置に關して自国の漁船に対して行なう取締りの実施状況を觀察するための他方の国の政府の公務員（以下「觀察公務員」という。）による当該漁業取締り船への乗船（以下「觀察乗船」という。）は、次の方法に従つて行なうものとする。

1 視察乗船は、主として、暫定的漁業規制措置の対象となつてゐる漁業の盛漁期に行なう。一回の視察乗船の期間は、十日以内とし、一隻の漁業取締り船に乗船する視察公務員の数は、二名以内とする。

2 一方の国の政府の關係当局は、視察乗船のために使用する自国の漁業取締り船三隻を指定し、かつ、これらの船舶の船名及び総トン数を記載した漁業取締り船一覽表を他方の国の政府の關係当局に通報する。一方の国の政府の關係当局は、前記の一覽表の記載事項に変更を生じたときは、他方の国の政府の關係当局に対して遅滞なく通報する。

대한민국과 일본국 간의 사업에 관한 협정에 관한 합의의 의서 부속 3(다)에 관하여, 일본국의 오토지 사업의 만족에 종사하는 감시선 (대한민국에 있어서는 수산청 사업지표선일, 일본국에 있어서는 수산청 사업만족선을 말하며, 이하 "사업 만족선"이라 한다.)에 걸려진 어업구제조치가 관하여 각각의 의견에 대하여 행하는 만족의 실제 상황은 서로가 가진 각국의 정부의 주무관 (이하 "서결문"이라 한다.)에 의할 만하다. 사업만족선의 승인 (이하 "서결 승인"이라 한다.)은, 다음의 방법에 따라 행한다.

1. 시립소년은, 주보, 잡지적 사업 계획표에의 반성이 되는
 장의의 장악기에 응한다. 1 회의 시립소년의 기간은 10 일 이내로
 한다. 1 회의 사업장전에 순전하는 시립소년회의 수는 2 명 이내로
 한다.

2. 임명국의 장과이 겸 제명국은, 시정촌선물을 위하여 사용하는
 자국의 아음민속신 3 책을 지정하고, 또한 이념 장과의 선봉 및
 음 민속을 거처, 아 음민속신 임명표를 학과국의 장과의 겸 제명국에
 공포한다.

3
(a)

一方の国の政府の關係当局は、他方の国の漁業取締り船への視察乗船を行なおうとするときは、その視察乗船予定日の原則として三十日前までに、他方の国の政府の關係当局に対して次の事項を明示した文書による要請を行なう。

- (1) 視察公務員の官職、氏名、年齢及び所屬官署名
 - (2) 視察予定海域
 - (3) 乗船予定日時及び視察乗船予定期間
 - (4) その他必要な事項
- (b) (a)の要請を受けた關係当局は、その要請を受けた日から十日以内に回答することとし、その要請を受諾することを通報するにあつては、次の事項を明示した文書による回答を行なう。
- (1) 乗船させる漁業取締り船の船名
 - (2) (1)の漁業取締り船の取締り予定海域
 - (3) 乗船日時及び視察乗船期間
 - (4) その他必要な事項

일본국의 정부의 경제 장관은, 전기 알발표의 기재사항에 변경이 있을 때에는, 대한민국 정부의 경제장관에 대하여 지체없이 통보한다.

3. (a) 일본국의 정부의 경제 장관은, 한국국의 여업 민속선제

시력승인과자할 때에, 동 시력승인 예정일의 명적자료로 30일

전까지, 한국국의 정부의 경제 장관에 대하여 다음 사항을 명시한

문자로 요청한다.

- (1) 거점 광물광의 명적, 지명, 인명 및 소속장관 명
- (2) 시력 예정 해역
- (3) 승선 예정일시 및 시력승인 예정기간
- (4) 기타 필요한 사항

(b) (a)의 요청을 받은 경제 장관은, 그 요청 받은 날짜부터 10 일 이내에 회답하여야 하고, 그 요청에 대한 수락을 응보함에 있어서는, 다음 사항을 명시한 문자로 회답한다.

- (1) 승선시키는 여업민속선 건명
- (2) (1)의 여업민속선의 명차 예정 해역
- (3) 승선일시 및 시력승인 기간
- (4) 기타 필요한 사항

(c) 一方の国の政府の關係当局は、他方の国の政府の關係当局の要請に應じ、視察乗船が年六回以上行なわれるよう取り計らう。

4 (a) 大韓民国政府の視察公務員が日本国の漁業取締り船に乗船する港は、博多港とし、日本国政府の視察公務員が大韓民国の漁業取締り船に乗船する港は、釜山港とする。下船する港は、乗船した港とする。

(b) 一方の国の政府の視察公務員は、他方の国の漁業取締り船に乗船するときは、自国の政府が発給する身分証明書を携帯し、かつ、当該漁業取締り船上にある権限ある公務員の要求に應じこれを提示する。

(c) 視察公務員は、その乗船している漁業取締り船の船長が、船員に対する命令、航海安全の確保、船内規律の維持等に関して有している職務及び権限を侵すことはできない。

5 視察公務員は、次のことを含むできる限りの便宜を受ける

(a) その乗船している漁業取締り船から自国の漁業取締り船に対して無線通信連絡を行なう便宜

韓国との漁業監視船の活動に関する取極

(c) 朝鮮国の政府の港務当局は、朝鮮国の政府の港務当局の要請に應じ、視察乗船が年6回以上行なわれるよう取り計らう。

4. (a) 朝鮮国政府の港務当局は、朝鮮国の港務当局の要請に應じ、視察乗船が年6回以上行なわれるよう取り計らう。

(b) 朝鮮国の港務当局は、朝鮮国の港務当局の要請に應じ、視察乗船が年6回以上行なわれるよう取り計らう。

(c) 朝鮮国政府は、その乗船している朝鮮国政府の港務当局の要請に應じ、視察乗船が年6回以上行なわれるよう取り計らう。

5. 朝鮮国政府は、次のことを含むできる限りの便宜を受ける

(a) その乗船している朝鮮国政府の港務当局の要請に應じ、視察乗船が年6回以上行なわれるよう取り計らう。

(b) 自国の政府から召喚の命令を受けた場合又は疾病等の事由により視察乗船を継続することが困難となつた場合において、その乗船している漁業取締り船が属する国の法令の範囲内で可能な必要な便宜

6 視察公務員は、その乗船している漁業取締り船内において、居住区、食事及び衛生等につき適切な待遇を与えられる。

7 視察公務員は、その視察乗船により要する食費を乗船している漁業取締り船の属する国の給食費支給基準により負担する。

書簡をもつて啓上いたします。本使は、千九百六十六年十月十八日付けの閣下の次の書簡を受領したことを確認する光榮を有します。

(韓国側書簡)

本使は、さらに、閣下の書簡に述べられた了解を日本国政府に代わつて確認し、かつ、閣下の書簡及びこの返簡をこの返簡の日付の日に効力を生ずる両国政府間の合意を構成するものとみなすことに同意する光榮を有します。
本使は、以上を申し進めるに際し、ここに重ねて閣下に向かつて敬意を表します。

(b) 各국 정부로부터 소립정령을 받은 경우 또는

정령들의 사유로 인하여 서립승선인 계속 하거나 군번하게 된 경우에는,

그 승선하고 있는 어업 단속선이 속 하는 국가의 법령의 범위 내에서

가능한 필요한 편의

6. 서립승선자들은 그 승선하고 있는 어업단속선에서 영주자,

즉, 각국 비영민으로서 관하여 서립한 의무를 부담.

7. 서립승선들은 그 서립승선인 따라야 하는 의무를 승선하고

있는 어업단속선의 소속자의 규정에 저를 기준에 의하여 부담한다.

千九百六十六年十月十八日

日本国特命全權大使 木村四郎七

大韓民国外務部長官 李東元閣下

(参考)

この取極は、韓国との漁業協定に規定された暫定的漁業規制措置の実施に関し、韓国とわが国の漁業監視船間の通信連絡、両国漁業監視船の連携巡視及び公務員の相互視察乗船について定めるものである。